

マンガ・アニメ・ゲームの複合アーカイブ施設

東京国際マンガ図書館(仮称) 計画

— プレスリリース資料 —



協力： 現代マンガ図書館，コミックマーケット準備会，海洋堂，
アーケードゲーム博物館計画，COMIC1 準備会，COMITIA実行委員会，
観光庁，独立行政法人国際交流基金 ほか

東京国際マンガ図書館（仮称）：ロードマップと目的

2009

米沢嘉博記念図書館

まんがとサブカルチャーの
専門図書館

2014

（完成目標）

東京国際マンガ図書館（仮称）

即売会場

シアター

常設展：マンガ・アニメ・ゲーム史

ヴェネチア・ビエンナーレ「おたく」展

企画展示

米沢嘉博記念図書館

協力・連携コレクション A

協力・連携コレクション B

協力・連携コレクション C

他コレクション

・
・
・
・
・

移設・複合

明治大学学長 納谷廣美



ごあいさつ

マンガやアニメを始めとする日本のサブカルチャーは、今や、輸出産業として、また輸出を介した文化交流において、重要な役割を担っています。その多様性と相まって、国内の幅広い世代に支持されてきたことから、その時々
の日本社会を鮮やかに映す鏡としても機能してきました。

このようにマンガやアニメ等が文化・産業・学術にまたがる多面的な重要性を帯びているにも関わらず、その歴史や広がり进行を明らかにしていくために必要となる体系的かつ複合的な資料の収集は、現在、公的な機関でもほとんどなされていません。他方、次代にわたり、さまざまな学術的探求や文化的活用を可能にしていく上で、資料保存が急務であることは、さまざまに提起されています。

明治大学は、2008 年 4 月に国際日本学部を開設し、この分野の研究・教育を推進するとともに、2009 年 10 月にはサブカルチャーの専門図書館である「米沢嘉博記念図書館」を開館することとなりました。そして同館を計画の第一歩とし、現在、大学全体の取り組みとして、世界最大級となるマンガ・アニメ・ゲームのアーカイブ施設「東京国際マンガ図書館」（仮称）を構想し、その準備に入っています。この施設は、これまで主に有識・有志の方々の個人的なご努力により収集・維持されてきた資料を、各位の協力を得て複合的に保存し、研究や文化的活用のために広く資することを目指すものです。

各界との社会的連携の下、神保町と秋葉原に近接する駿河台の地で、公共的使命を担う施設として実現いたします。

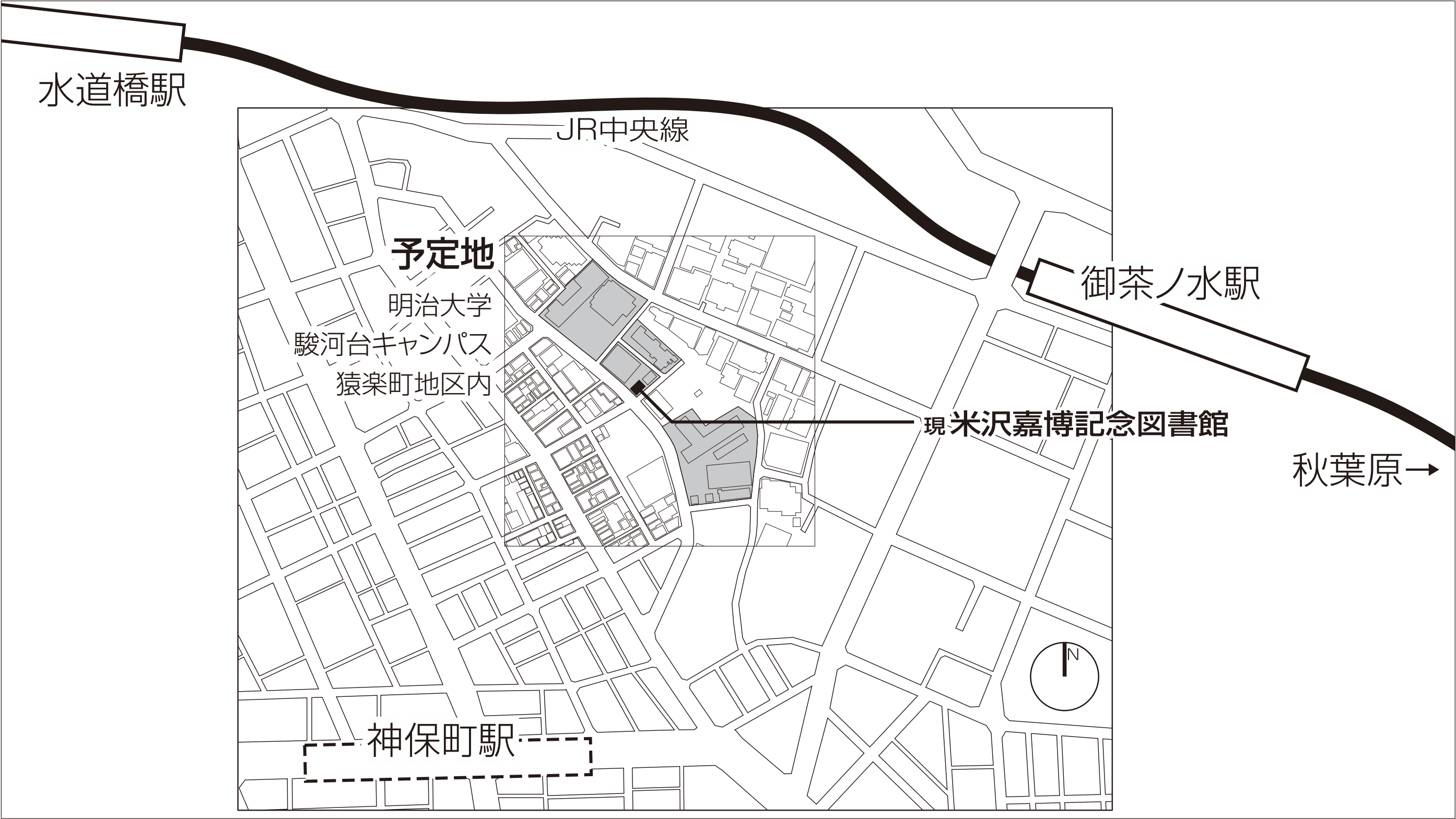
予定地＝ 千代田区猿楽町
(明治大学駿河台キャンパス猿楽町地区内)

神保町・御茶ノ水・秋葉原に近接

JR 御茶ノ水駅より徒歩 7 分

JR 水道橋駅より徒歩 7 分

地下鉄神保町駅より徒歩 8 分

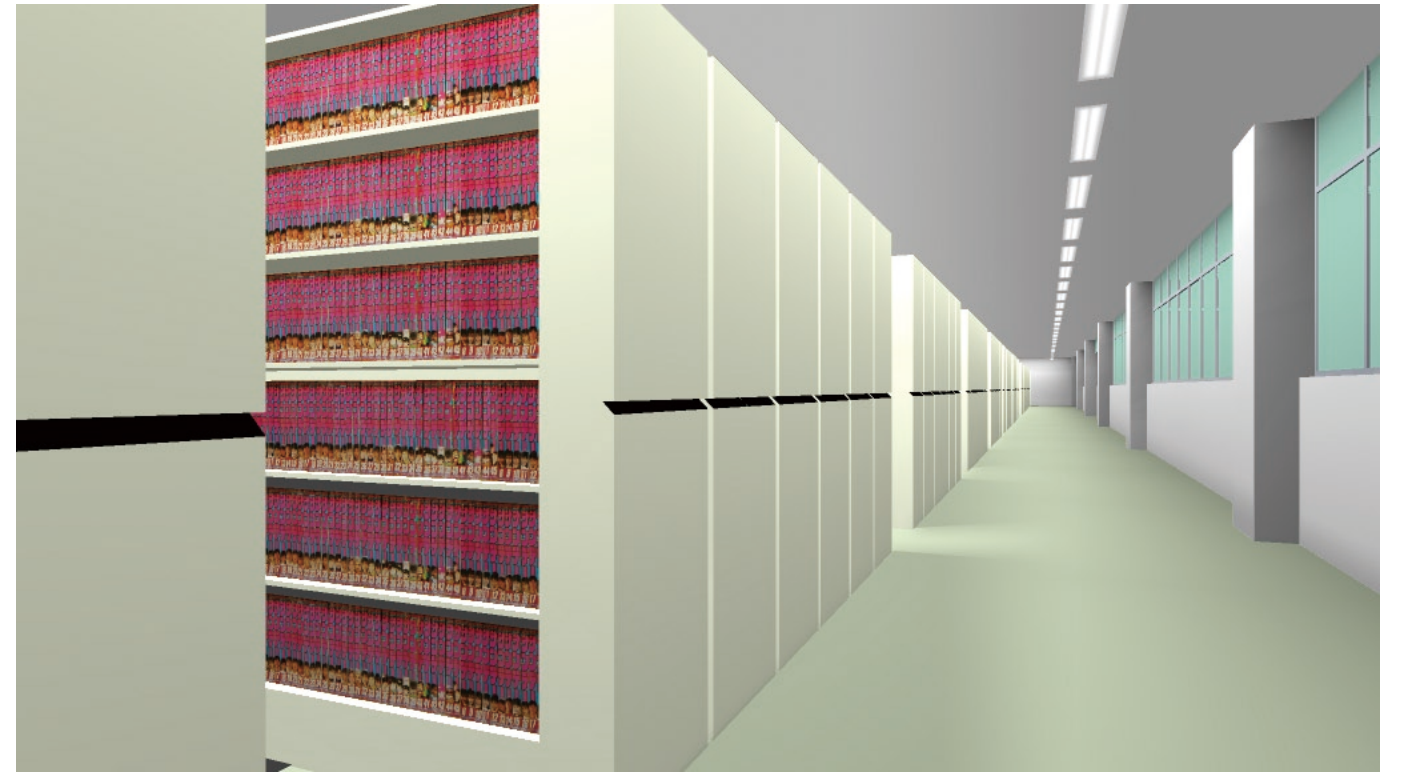




外観イメージ図



イベントホール



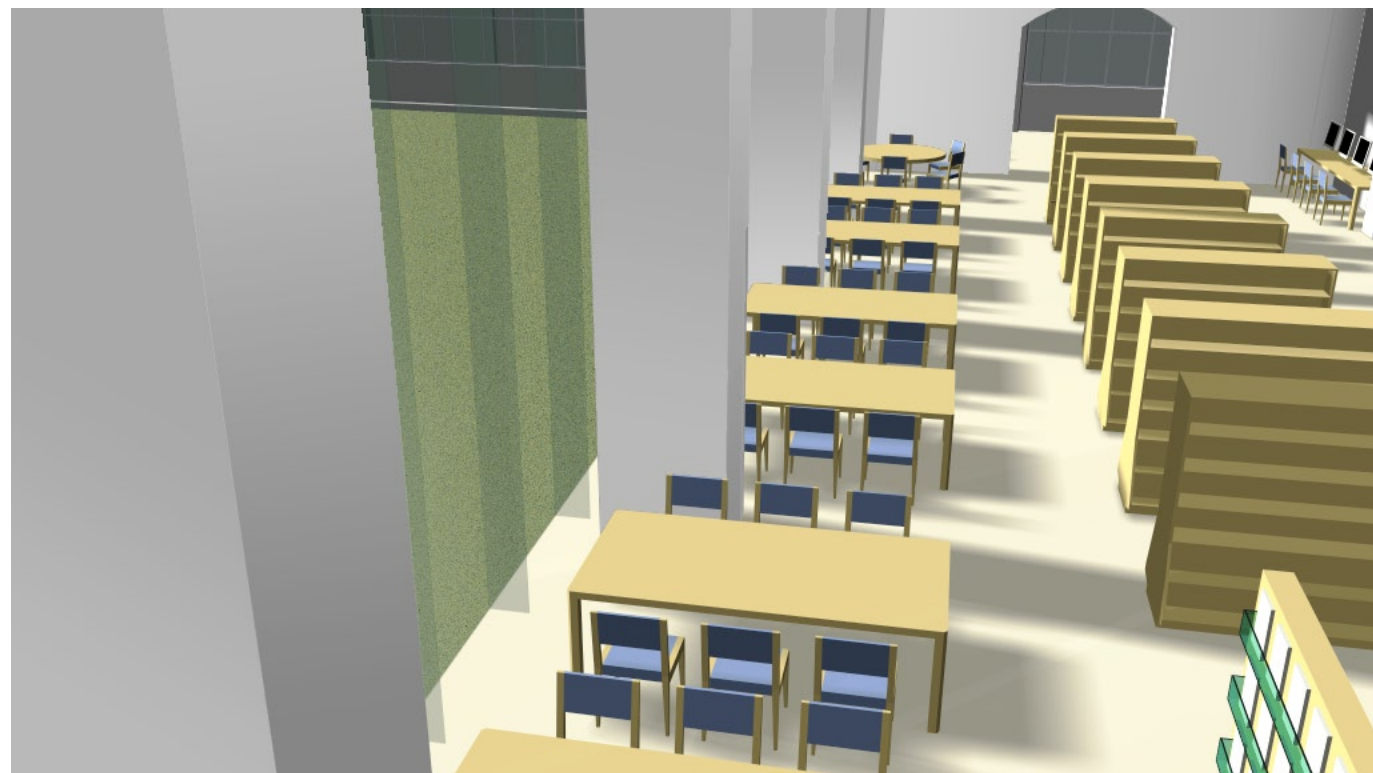
アーカイブ／集密書庫



シアター



ミュージアム



閲覧室



外観

イメージ図

【施設の概要】

名称：東京国際マンガ図書館（仮称）

目的：マンガ・アニメ・ゲームおよび関連分野の資料保存、ならびにその学術・文化的運用

機能：複合アーカイブ施設（複数のコレクションからなる専門図書館およびミュージアム、シアター、催事場、研究室 ほか）

予定地：東京都千代田区猿楽町（明治大学駿河台キャンパス猿楽町地区内）
※各線・御茶ノ水駅、神保町駅、水道橋駅より徒歩6～8分程度

完成目標：2014 年度

収蔵対象： ◎マンガ・アニメ・ゲームおよび関連分野の図書・雑誌・同人誌
◎マンガの原稿、アニメの原画類・セル画・フィルム
◎アニメのパッケージソフト
◎業務用ゲームの筐体・基板
◎家庭用ゲーム機およびパッケージソフト
◎キャラクター商品類、フィギュア ほか

取得済みコレクション①



年間延べ110万人を現在集める同人誌展示即売会「コミックマーケット」を築いた米沢嘉博氏（1953 - 2006）は、生涯にわたってマンガやサブカルチャー関係の資料を収集し、14万冊を超える蔵書を遺した。

その蒐集の対象は多岐を極め、他にコレクターがいないとされるレディースコミック誌や、国会図書館でも欠本が目立つ風俗・カストリ雑誌を多量に擁していることに特徴付けられている。

明治大学では、同氏の遺族からこのコレクションの提供を受け、これを整理・目録化し、研究運用に供するための「米沢嘉博記念図書館」を2009年10月に開館し、「東京国際マンガ図書館」（仮称）の先行施設として機能させる。

◆分量：

- ・故・米沢嘉博氏蔵書：4487箱
- ・故・岩田次夫氏蔵書：403箱

合計 14万冊以上

◆主要内容：

- ・マンガ雑誌、単行本
- ・同人誌
- ・サブカルチャー（SF・アニメ・映画・音楽等）雑誌・関連書
- ・カストリ雑誌

◆現在保管場所：米沢嘉博記念図書館ほか

マンガとサブカルチャー書の日本随一の個人コレクション

故・米沢嘉博氏蔵書

取得済みコレクション②



ヴェネチア・ビエンナーレは1895年に開始されて以来、百年以上の歴史を持つ諸芸術のオリンピックである。黒澤明や北野武が国際映画祭で金獅子賞を獲ったことで、日本では銘記されている。

2004年に開催された国際建築展で、日本は、先端文化が秋葉原を塗り替えたことを下敷きに、人格と都市の関係を描く展示を組んだ。国際交流基金が主催し、磯崎新氏の指名により、森川嘉一郎がコミッショナーを務めた。

この展示は建築展でありながら、建築家やデザイナーではなく、おたく界の人々によって作り上げられている。商品や作品としてではなく、それを生み出す人々や場、ライフスタイルとして、初めて「おたく文化」を本格的に提示するものとなった。

同展は星雲賞を受賞したほか、2005年に東京都写真美術館で巡回展が行われ、NHK『新日曜美術館』でも特集された。

◆展示面積：256㎡

◆主要展示物：

- ・『レンタルショーケース』240個＋フィギュア約1万體
- ・『おたくの個室』再現模型18個＋インスタレーション
- ・『コミックマーケット』会場模型
- ・『秋葉原の変遷』都市模型

◆現在保管場所：明治大学府中施設

ヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展日本館

「おたく：人格＝空間＝都市」展

取得済みコレクション③ マンガ・アニメ・ゲーム史展示用個別収集資料（下記はごく一部）



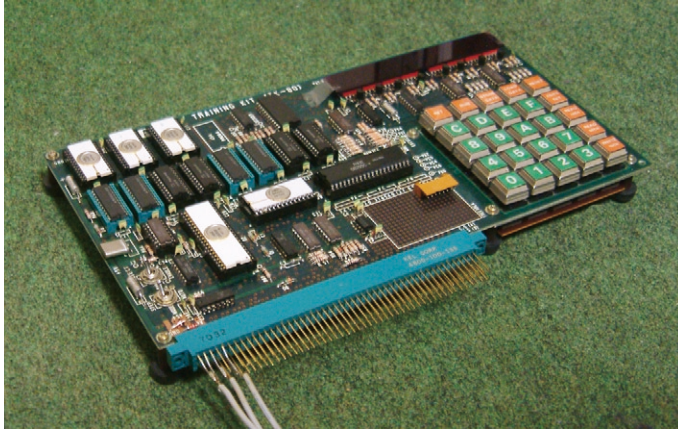
▲セル画や原画などアニメ関係の本学保有コレクションの一部



▲等身大フィギュア



▲『スペースインベーダー』（手前）、『ゼビウス』（奥）



▲日本初のマイコンキット NEC TK-80



▲初期のパソコン シャープ MZ-80K

本学では、広範な収集と保存を目的とするアーカイブや、さまざまな企画展示とともに、一般来館者がマンガ・アニメ・ゲームの文化を史的に俯瞰できるようにするための常設展示を準備している。

歴史を展示的に描き出すためには、史的・展示的・象徴的価値の高い展示資料を、明確な史観に基づいて収集する必要がある。ところが、とりわけアニメやゲームについては重要な実物資料の多くをスタジオやメーカーでも散逸させてしまっており、その多くがアトランダムに古物商や競売に出没しているのが現状である。このため、寄贈や賃借に頼ったり、開館が迫ってから収集を開始したのでは、まともな歴史展示の構築が不可能になる。海外への流出を防止するためにも、すでに2007年より古物商や競売を見張り、取得を進めてきた。

◆2009年10月現在の取得資料（継続収集中）

- ◇アニメ原画・レイアウト類 415 点：宮崎駿氏直筆 52 点のほか、傑出した作画監督によるもの多数。現在、一部を『スタジオジブリ・レイアウト展』に貸出中。
- ◇アニメ直筆設定画 14 点：アニメのロボットデザインに革新をもたらしたもの等。
- ◇アニメセル画 90 点：アニメ史上重要な作品・シーン・キャラクターのものを中心に。
- ◇ポスター 120 点：国産初のカラー長篇アニメーションのポスターをはじめ、劇場用アニメおよび重要なテレビアニメの番組宣伝ポスターを中心に。
- ◇業務用ゲーム筐体 6 点：全国の喫茶店にゲーム機を普及させることになった作品をはじめ、アミューズメントの風景やスタイルを変えてきたもの等。
- ◇業務用ゲーム基板 20 点：ゲームデザインに革新をもたらしたもの等。
- ◇マイコン 10 点：国産初のマイコンキットをはじめ、コンピュータのホビーユースを広める上で重要な役割を果たしたもの等。

他、多種、多数

協力・連携箇所 およびそのコレクション①



▲蔵書目録



▲内記稔夫館長



日本最大の私設マンガ図書館

現代マンガ図書館〈内記コレクション〉

現在、新宿区早稲田に立地している現代マンガ図書館は、漫画を総合的に収集・分類・整理する機関が皆無に近い状況を憂い、貸本業を営んできた内記稔夫氏が漫画の保存を目的に設立した私設図書館である。

1978年の開館当時、内記氏の個人蔵書を核に3万冊より開始した蔵書は、新刊の購入や寄贈本、古書市場などで集められた漫画の単行本や雑誌などにより年間で約8千冊増加し続け、現在約20万冊に達している。

とりわけ昭和30年代のものを中心とする3千冊余りの貸本漫画は、国立国会図書館に所蔵されていないものも多数あり、近年、大学研究者により本格的になされ始めた漫画史研究の大きな拠り所となっている。内記氏はその功績により、第1回手塚治虫文化賞特別賞を受賞している。

内記氏には現在、明治大学マンガ図書館準備委員会委員として、東京国際マンガ図書館計画のスーパーバイズにあたって頂いている。

◆分量：約20万冊

◆主要内容：

- ・マンガ雑誌、単行本、貸本マンガ
- ・セル画などアニメ関連資料

◆現所有者：内記稔夫

◆現在保管場所：新宿区早稲田鶴巻町

協力・連携箇所およびそのコレクション②



日本のキャラクター文化の大きな土壌となっているのが、ファンによる同人誌の展示即売会の中でも最大規模を誇る“コミックマーケット”である。1975年に始まり、30年以上にわたって継続開催されてきたこの祭典は、これまで多くのプロの作家を育ててきたと同時に、商業市場に波及するさまざまな流行の最前衛の場ともなっている。総面積23万㎡におよぶ東京国際展示場を毎回3日間にわたって全館貸し切り状態にし、各日約1万2千サークルが総入れ替えし、合計3万5千サークルが同人誌を売る。

入場者数は現在、毎回3日間で55万人に上る。その運営を行っているNPOのコミックマーケット準備会では、参加サークルのすべての同人誌の見本誌を一冊一冊回収し、保存してきた。これまで国会図書館にもそのほとんどが収蔵されていない、これら200万冊にも上る膨大な量の同人誌が閲覧可能になれば、日本のマンガ・アニメ・ゲーム文化の原動力の学術研究が大きく前進すると期待される。

コミックマーケット準備会共同代表の安田かほる、筆谷芳行、市川孝一各氏には現在、明治大学マンガ図書館準備委員会委員として、米沢嘉博記念図書館並びに東京国際マンガ図書館計画のスーパーバイズにあたって頂いている。

- ◆分量：約200万冊（約1万2千箱：2009年現在）
- ◆主要内容：マンガ・アニメ・ゲームなどの分野の同人誌
- ◆現所有者：コミックマーケット準備会
- ◆現在保管場所：コミックマーケット準備会倉庫

世界最大のマンガ・アニメ・ゲームの祭典、30余年分のコレクション

コミックマーケット準備会

協力・連携箇所 およびそのコレクション③



ゲームメーカーの多くは、空間的な問題などから、自社製品を総合的に保存しているところが少ない。とりわけ業務用ゲーム機については、この傾向が顕著である。古くなったゲーム機は娯楽施設などから次々と廃棄され、すでに製造元による復元すら不可能になっているものが少なくない。

「アーケードゲーム博物館計画」は、このような状況を憂慮し、私費を投じて全国の娯楽施設からゲーム機を引き取り、保存し、閲覧に供する活動を行っている有志団体である。メーカーと連携して維持・補修にあたり、製造元で欠品しているゲーム機については、イベントなどに貸し出すなどの相互協力関係を築いている。

昭和時代のゲームを作ってきた技術者がメーカーから退職しつつある現在、そうしたゲーム機の保存や修復に要する技術の継承も急務となっている。

- ◆分量：
 - ・ゲーム筐体：32 台
 - ・ゲーム基板：約 800 枚
- ◆主要内容：業務用ゲーム機、ゲーム基板、資料など
- ◆現所有者：アーケードゲーム博物館計画
- ◆現在保管場所：埼玉県南埼玉郡

製造元にも貸し出す日本随一の業務用ゲーム機の私設博物館

アーケードゲーム博物館計画